

【認定情報】 審査期間

● 認定審査期間の実績(H28.7月～9月)

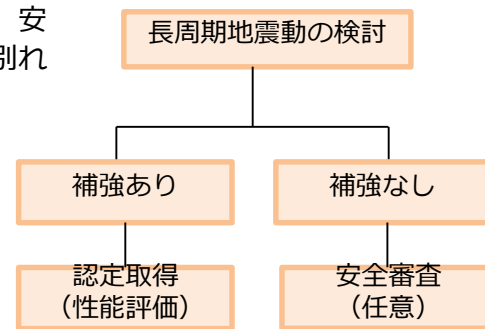
	標準期間	実績
新規	2ヶ月	68～91日 (2.5ヶ月程度)
新規 (特定天井あり※1)	2.5ヶ月	—
計画変更	1.5ヶ月	82～88日 (3ヶ月程度)
計画変更 (特定天井あり※1)	2ヶ月	—
軽微な変更	1ヶ月	14～66日 (1ヶ月程度)
軽微な変更 (特定天井あり※1)	1.5ヶ月	—

—は該当期間内での実績なしを示す

年度初の申請案件は担当官の異動等により、標準期間を大幅に超えていました。最近は解消されつつありますが直近の案件においても標準期間を少し超えています(+0.5ヶ月程度)。申請される際は十分に余裕のあるスケジュールでご計画ください。

【トピックス】 既存建築物の長周期地震動対策

補強の要否により、性能評価、安全審査(任意の技術評価)に別れます。



◆ 大臣認定の取得

オイルダンパーなど制振補強を行う際は「計画変更」となるため、新たな大臣認定の取得が必要です。特に平成12年告示改正以前の超高層建築物を改修する場合は告示波の検証が必要となります。

検証1：告示波に対して

認定取得時は現行の業務方法書に従って審査が行われるため、告示波の検証が必要となります。この際、クライテリアは現行基準(層間変形角1/100以下など)通りとなります。

検証2：長周期地震動に対して

既存の超高層建築物等に対しては、長周期地震動による検討が義務化されていません。従って、告示波とは異なり業務方法書で定めるクライテリアの厳守は求められていません。

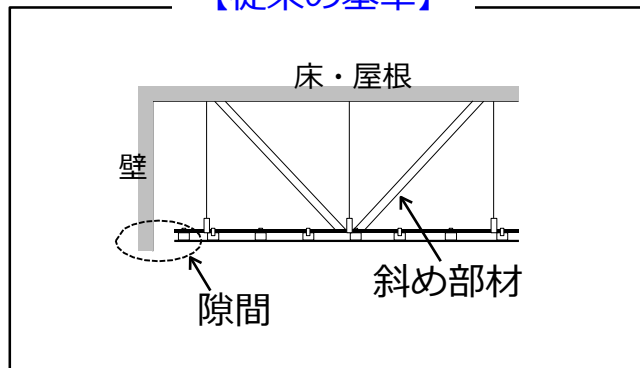
◆ 安全審査(任意の技術評価)

補強が無い場合は、認定の取得は不要です。ただし、任意の技術評価で検討の妥当性を審査することができます。

【解説】隙間なし天井の新基準

特定天井に関する設計ルートのうち、仕様ルートとして「周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様」が追加されました。

【従来の基準】



設計時の注意点

(クリップの接合部)

慣用のクリップを用いた場合、脱落のおそれ有り

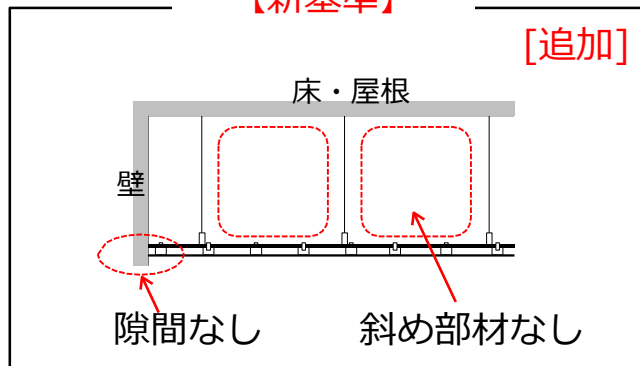


緊結状態の確認には、動的な衝撃試験結果※1が必要

※1 衝撃試験はGBRCで行っています。

【新基準】

[追加]



a) JISクリップによる大規模な落下



b) 耐風圧クリップを用いた場合の天井板の落下

写真 大規模天井の動的加振実験における破壊状況※2

※2平成28年基準（隙間なし天井の新基準）の解説

【お知らせ】受付委員会を省略した審査を開始します（再掲・一部追加）

◇9月1日より2つのコースに分けて審査を行います

中低層コース（新設）

部会 → 報告委員会による審査

＜対象建築物＞

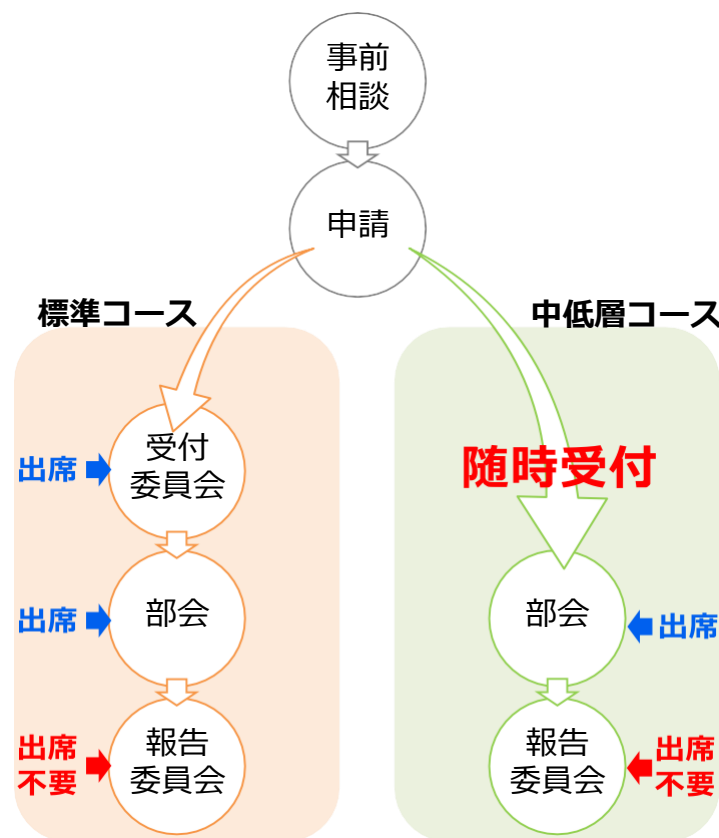
- ① 高さ60m以下の免震、制振建築物
- ② 構造種別、架構形式、使用材料が特殊ではない
- ③ 地盤が特殊ではない
- ④ 特別な検討を有するものではない

標準コース（従来通り）

受付委員会 → 部会 → 報告委員会による審査

＜対象建築物＞

- ① 高さ60m以上の超高層建築物
- ② 中低層コース以外の高さ60m以下の免震、制振建築物



☆中低層コースのメリット

- 随時受付を行うため、設計工程が組みやすくなります
- 委員会への出席が不要なため、時間の節約が可能となります

【イベント】情報交流・構造技術セミナー

今回は「超高層建築物等における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動対策」に関連する特別講演を予定しております。基準整備に関わられた講師の方々にご講演頂きます。また、当法人で性能評価を受けられた「免震・制振建築物の設計事例」を設計者自らご紹介いただきます。

セミナー後の懇親会（無料）ではご講演頂く先生方と歓談いただけます。こちらも是非ご参加ください。



【開催概要】

日時：平成28年11月11日（金）
13：00～17：45（懇親会 18：00～）

場所：大阪府建築健保会館6Fホール

参加費：無料

申込み締切：平成28年10月28日（金）

※詳細は別紙をご参照ください。

申込み、お問合せは性能評定課まで（担当：野村、山崎）
Email：hyotei2@gbrc.or.jp Tel：06-6966-7600

特別講演（4題）

◆設計事例

①連結制振構造を利用した超高層建築物の構造設計／
様々な平面形状や高さに対応した超高層連結制振構造の構造計画の事例紹介
(株)大林組 大阪本店 構造設計部 副部長 福本 義之様

◆長周期地震動対策

②検討地震動／基盤促波等の解説・設計時に留意すべき事項
国土技術政策総合研究所 建築研究部 建築品質研究官 小山 信様

③鉄骨梁端部／超高層鉄骨造建築物の繰返し変形による梁端部破断の検証方法
建築研究所 構造研究グループ 主任研究員 長谷川 隆様

④免震材料／免震建築物の繰返し依存性の検証方法
北海道大学大学院 工学研究院 教授 飯場 正紀先生

【編集後記】

早いもので、今年も10月です。環境省が推進するクールビズが9月30日で終了し、装いも秋らしくなってきました（GBRCのクールビズは10月30日までです。）。この秋、初めて子供の運動会に参加します。何十年？ぶりの運動会ですが、昔の感覚と肉体の現状のギャップを意識しながら、けがをしない程度に張り切ってこようと思います。

発行者：一般財団法人 日本建築総合試験所
建築確認評定センター 性能評定課
担当：野村、山崎、柳井
TEL：06(6966)7600 FAX：06(6966)7680
E-mail：seinou@gbrc.or.jp